

# 令和6年度「一中の教育を振り返る意識調査」 学校評価の結果と考察

調査実施日 令和7年1月20日～27日

## 1 調査について

本校では、毎年、教育活動や学校運営について継続して改善を行うために、「一中の教育を振り返る意識調査」を行っている。これは、今年度の学校経営方針について、保護者・生徒・教員の三者にアンケート形式で調査をしているものである。学校経営方針の5分野16項目についての質問項目とし、上記日程で保護者・生徒・教員の三者にアンケート形式で調査を行い、Microsoft Formsを活用し、回収したアンケートの結果をまとめて分析した。ただし、生徒は教室で一斉に回答している。

※回答は「4：そう思う」「3：ややそう思う」「2：あまりそう思わない」「1：そう思わない」からの選択

## 2 調査結果と考察

### (1) 総評

「4」「3」の合計が80%を超える評価は、16の評価項目中、保護者5項目、生徒4項目、教員15項目であった。全体として昨年同様、生徒と教員との意識にずれが生じていることが分かる。教育活動において、生徒の活動を価値づけたり適切に評価したりすることによって、生徒が自信をもって自らの活動を評価できるようになるものと思われる。

また、全体的な一中学生のよさとして、元気で明るく素直である、あいさつがよいということがあげられる。一方、課題としては自主性や積極性が足りないこと、けじめのある行動ができる人が少ないことなどがあげられる。これからの予測困難な時代を、たくましく生き抜く力を身に付けられるような教育活動を展開していきたい。伝統ある一中の良さを引き継ぎつつ時代の変化にも対応しながら活力あふれる学校づくりを目指していく。

### (2) 成果

「4」「3」の合計が、生徒、教職員ともに80%以上の高い評価を得たのは、次のとおりである。

- |   |         |
|---|---------|
| <input type="checkbox"/> 「いのち」を大切にすることを育て、自己有用感を高める教育の推進  | 項目3 (1) |
| <input type="checkbox"/> 互いの個性を尊重し、高め合いながら、共に伸びようとする力の育成。 | 項目3 (2) |
| <input type="checkbox"/> よりよい生き方についての考えを深める道德教育の充実        | 項目3 (3) |

いずれも学校経営方針3『「いのち」を見つめ、『志』を育む教育の推進』に関わる項目である。本校では「一中いのちの日」を定めており、合計8回の活動に取り組んだ。平成17年度から行っているこの活動は、年ごとに形を少しずつ変えながらも本校の特色ある取り組みの一つとして継続している。今年は、全校一斉の道德や外部講師の先生をお招きしての講話等を企画した。さらには「被爆ピアノコンサート」を体育館で開催し、平和の尊さや命の大切さに触れる機会を得た。「いのちの日」のシンボルマークのカラーリングを考えたり、講話やコンサートの振り返りを書いたりす

る活動を通して、自己の成長を実感していることがうかがえる。保護者記述の中にも、これからも継続することを望む言葉をいただいた。道徳の授業では、全校一斉道徳や担任以外の教員による授業を実施しており、教職員も互いに学び合い、質の高い指導方法への改善を目指している。今後も「いのち」「志」をキーワードとした教育活動を大切にしていきたい。

「4」「3」の合計が、保護者、教職員ともに80%以上の高い評価を得たのは、次のとおりである。

<input type="checkbox"/> 学校行事や生徒会活動等による社会性や貢献意欲、自尊感情の育成	項目2 (3)
<input type="checkbox"/> 「いのち」を大切に作る心を育て、自己有用感を高める教育の推進	項目3 (1)
<input type="checkbox"/> 互いを尊重し、高め合いながら共に伸びようとする力の育成	項目3 (2)
<input type="checkbox"/> 校内、校外研修への参加、若手教員を全職員で育て支援する同僚性の醸成	項目4 (2)
<input type="checkbox"/> 学校評価の結果を踏まえた教育課程編成と地域・保護者への周知	項目5 (3)

5つの項目について高評価を得た。中でも、項目3(1)(2)の二つは生徒、保護者、教員の三者が80%以上と高い評価となった。項目2(3)の学校行事に関しては、近年はコロナの状況や熱中症対策等を強いられ、その在り方や実施方法について検討を重ねてきた。保護者記述では、体育祭や合唱コンクールにおいて生き生きと活動している様子や仲間とひとつになっている様子を見て感動した、という声をいただいた。今後も生徒たちにとってよりよい活動となるように取り組んでいく。

### (3) 課題

保護者、生徒、教職員いずれも「4」「3」の合計が80%以下の評価項目はなかったが、保護者・教員の二者が低い評価だったのが、次の項目である。

<b>■ 「1人1台端末」を有効活用した個別最適な学びと協働的な学びの実践</b>	項目1 (2)
---	---------

タブレットの有効活用について、保護者58 (R5は69%)、生徒81% (R5は77%)、教員72% (R5は55%)と三者間に開きがある。今年度の夏休み中に各教室に電子黒板が配置され、2学期以降の活用が急速度に進んだ。電子黒板の導入により、これまで以上に動画や地図・資料など視覚的な資料をわかりやすく提示することが可能になったり、生徒がタブレットに入力した意見を電子黒板に映して他の生徒の作品と比較したり、大事なことを書き込んだりするなど、活用の幅が広がって授業のスタイルも変わってきた。教職員同士で電子黒板やタブレットの使い方に関する研修会を開いたり、活用法について教科の枠を超えて情報交換したりと、教員の意識が大きく変わったことが数字にも表れたのだろう。一方で保護者の結果は昨年度より-9%であり、これは活用の様子があまり伝わっていないからではないかと思われる。今後一層タブレットの活用は進んでいく。有効的な活用について、さらに探っていきたい。

教員の評価より生徒の方が20%以上低い評価項目は、全部で5項目あり、その中でも差が最も大きかった（-25%）のは次の項目である。

■社会性や自尊感情の育成

項目4（1）

生徒の評価が昨年度は66%で今年度は67%と昨年度比+1だったのに対し、教員は61%から92%に転じた。生徒は、学校行事や生徒会活動にはとても意欲的に参加している。そこで身に付けた力がどのように社会に生かされるのか、生徒会活動の取組がどのように社会に役立っているのか、という認識がまだできていないものと思われる。他のアンケート調査を見ても本校の生徒は自尊感情が低い傾向がある。それを高めるためには教員の適切なフィードバックが必要である。学校行事や普段の学校生活の中で様々な経験をさせ、意識的に認めの言葉をかけたり、成功したときにはその良さをフィードバックしたりするなどし、生徒の社会性や自尊感情を育んでいきたい。

教員の評価より保護者の方が20%以上低い評価項目は、全部で4項目あり、中でも差が大きかったのが次の二つである。

■生徒が主体的に取り組み、かつ各教科の見方・考え方を働かせる授業の充実 項目1（1）

■よりよい生き方についての考えを深める道德教育の充実 項目3（3）

この項目二つは昨年度と同じ結果となった。記述においても学習に関する記載はあまり見られなかったことから、授業の様子がわからないことが要因の一つと思われる。今年度はフリー参観に加え、3年生の「総合的な学習の時間」の発表の場面を見ていただく機会を設けた。今年度初めての試みでまだまだ研究の途上ではあるが、下学年が最上級生の発表を見たり、お家の方から見ただけたりすることで、生徒達のよい励みにもなった。来年度も発表の機会を作る予定である。「総合的な学習の時間」で取り組む探究学習の学びが他の教科の学びにも広がり、社会に出たときに生きて働く力となるように、これからも授業づくりをしていきたい。

## 学校関係者評価について

[参考]

2月21日(金)、本校の自己評価結果を提示し、学校運営協議会の委員による学校関係者評価を実施した。今回は、資料で自己評価結果を報告だけでなく、事前に生徒会役員との交流を通して学校の現状に触れていただいた上で、広く学校経営について評価(意見)をいただいた。

### 1 項目1(2)「1人1台端末を有効活用した個別最適な学びと協働的な学びの実践」について

保護者と教員の二者について評価が低い項目である。電子黒板の使用は導入された2学期以降、使わない日はないくらいにほぼ毎日使用されている。タブレットの使用頻度も増えており、生徒がタブレットに入力したものを電子黒板に映して全員で見るような授業場面もある。授業の様子がなかなか保護者の方に伝わっていないことや、家庭でタブレットを使用する機会は少ないために評価が低かったと思われる。長期休みや週末に持ち帰ってタブレットで行う宿題を課したこともあるが、今後、そのような機会が増えていくと思っている。

### 2 項目3(1)「『いのち』を大切にすることを育て、自己有用感を高める教育の推進」について

評価が高い項目である。特に教員の評価が昨年度に比べると上がっており、その要因は何かという質問があった。要因の一つとしては、教員が一人ひとりに丁寧に関わっていることではないかと考える。生徒の自尊感情を高めるには適切な言葉かけやフィードバックが大切である。先生方はそれを実践しているところである。教育相談期間の二者面談だけでなく、日頃から生徒との関わりを大事にしていることの表れではないかと思う。また、今年、教育相談委員会の中で、SCの先生から子どもたちへの関わり方について教えてもらう機会を作ったこともよかったと思っている。

### 3 項目2(1)「自主的・自発的な生徒活動の奨励」について

昨年度に比べて評価が低くなった項目である。生徒会執行部を中心に活動を委員会活動やボランティア活動に積極的に取り組んでいるところである。さらに活動が見えるようになると評価としてはあがっていくものと思っている。

生徒会長、副会長との懇談の場面では、地域と連携したボランティア活動推進についてのご意見や、全校生徒で取り組んだあいさつ運動、レクリエーションなどへの評価をいただいた。また、地域と一緒にどのようなことができるのかを考えるきっかけをいただいた。今後も教育目標である「ふるさとに誇りを持ち、学び続ける人間の育成」のために特色ある教育活動を行っていきたい。